

# さいたま市教組新聞

編集・発行/  
さいたま市  
教職員組合  
〒330-0843  
さいたま市大宮区  
吉敷町4-93-5  
大宮教育会館2F  
TEL 641-6763  
FAX 648-3567  
2020. 10. 19(月)  
No. 264

## あつてはならない虚偽打刻 「正しく打刻しないと法令違反ですよ」

毎年市の教育施策や学校運営・教育条件整備について市教組は教育委員会との交渉の場を設けています。ここでは市教委のすべての部署(各課)と様々な課題・要求についての交渉を行っています。今年はコロナ禍において時期が延び延びになってまいりましたが、10月6日に市教委会議室で交渉が行われました。長年懸案になっていた様々な問題に加え、この状況で新たに発生した問題・課題が次々と市教組に寄せられます。とても1回の交渉では解決できない事案が山積みでしたが、市教組からは16人が参加し、当局側の市教委はコロナ対策として担当者を入れ替えながらの交渉がすすめられました。

### 打刻問題で改善を要求

前々から問題になっている勤務時間の打刻については、相変わらず多くの職場で問題が起きている。交渉の場でも、この問題については時間をかけて話し合いました。そもそも、カードによる打刻は勤務実態を正確に把握し業務改善を図る有効な施策として、市教組の長年の要求から実施されたものでした。これ

を実施することによって勤務時間を正しく把握し、特に残業時間の状況を正確に明らかにして業務改善を図る手立てとするものでした。さらに、万が一過労による病休が発生した場合の、その根拠や判定のための貴重な資料となります。導入当初は、管理職の指示や教職員自身の判断で休日の勤務を打刻しなかったり、退勤の打刻後に遅くまで残業をしたりするなど、規則違反とも

いえるような実態も多く見られました。これに対しては、これまでの交渉の場で再三にわたり市教委に対して改善を訴えましたが、教職員人事課長は「あつてはならないこと。校長に指導する。」と語気を強め、改善を約束をしました。先日(8月26日)の校長会の場でも改めて教職員課長から、土日の出勤も打刻する旨の指示をしたそうです。

しかしながら、多くの職場から寄せられる実態は、相変わらずの遅くまでの残業、土日の出勤という実態です。しかも最近多く言われる訴えは、土日に出勤したにもかかわらず、校長から「勤務の指示はしていないので、打刻しないように」と言われる事態の横行です。しかし、やむを得ず休日



に勤務しなければならぬという実態は相変わらずのようです。

また、管理職(校長、教頭)はこのところどの職場でも努めて早く退勤しているように見受けられます。休日の打刻問題も含めて、少しでも勤務時間を減らしたいという管理意識の表れかと思えますが、やはり教育施策を第一とした業務の削減・改善を図らない

限りはこの実態は変わらないものと思われま。行政が導入を図ろうとしている「変形労働時間制」では、法定の労働時間を順守することが必須なわけですので、いかなる方法を駆使しても労働時間の削減は、行政は目指しているのかもしれない。因みに、労安法が昨年4月に改正され、勤務時間の管理は法的義務であり、虚偽報告は懲

戒の対象であることまで規定されました。市教委も勤務時間の削減については同じ願いです。正しく打刻することを強く訴えます。

交渉の場で教職員人事課長は、改めて「打刻時間の改ざんはいけない」「校長会でこれからも指導する」と回答し、打刻問題について、改めて改善を約束しました。

【2面に続報】

## 閑話

### 10月5日は「教師の日」

世間ではあまり知られていませんが、10月5日は「教師の日」とされています。

ウィキペディアによると、「教師の日を祝う考え方は19世紀に多くの国で根付いた。ほとんどの場合、地元の教育者や教育における重要な日を記念日として定めている国が多い。1994年にはユネスコが、10月5日を世界教師デーと定めている。」とされ、世界的にはとても認識された日であるようです。

民間の団体では「社会全体で教師という職業の大切さを改めて考え認識してもらおうと同時に、教師に感謝を伝える活動を継続して行くこと、教師自身のモチベーションや、質のアップにつなげていく」として、普及を図る動きもあるようです。一方で、時の政府の教育再生実行会議やそれに準じた団体が、「教育改革」普及に利用する動きもあったので、日本の中ではまだ正しく理解されていないようです。

私たちはどうしても、自分たちの地位向上や待遇改善、ましてや市民からリスペクトを請うなど面映ゆかったり、おこがましいと思いがちですが、日ごろの激務に免じて、思い切つてこの日の存在を主張してもいいのではないのでしょうか。さらに、それが教育の質を向上させ、目の前の子どもたち、市民に良い意味で還元されるのであれば大切な日に位置付けられると思います。

